

令和五年七月

晋賢光明

華嚴宗 晋賢光明寺

今月の法話

「観音経講座 基礎編」

毎月の勉強会で読誦している観音経。その内容について何度か勉強会でも取り上げてきました。しかし、お経の意味というのはいくつ一度話を聞いただけで身体の中に入ってくるものではありません。何度も何度も繰り返し返していく中で、少しずつこういう意味だったのかと腹落ちしていくものです。今回は観音経についての基礎的なお話をしようと思います。

まず「観音経」は『妙法蓮華経』（法華経）という長い經典の二十五番に位置するお経です。しかしながら、あまり法華経の文脈で語られることはありません。どちらかというと独立した「観音経」というお経として語られることの方が主流でしょう。

それもそのはずで、人々の観音信仰の強さから観音経はあとから法華経に追加されたお経では無いかという説が有力です。それほどまでに、人々は観音様を求めて来られたのです。観音様は私達衆生に寄り添ってくださる慈悲の菩薩であり、その慈悲に応えるように私達は観音信仰を深めてまいりました。

観音様は本来「正法明如来しょうぼうみやうにょらい」という仏でありましたが、私達衆生を救うために菩薩の位に降りてくださっているのです。これが観音様の本質の一つで、相手のために自身の姿を変えることをいとわないのです。それは「観音」と呼ばれる尊像の種類の多さから見ることが出来ます。お釈迦様や、お不動さんにしてもその姿が大きく変わることはありません。しかし、観音様は「聖観音」を始め「十一面」「千手」「如意輪」「不空罽索」「准胝」「馬頭」など顔の数も手の数も自由自在。これに加えて「楊柳」「白衣」「龍頭」などのあまり知られていない観音様を含めればその数は計り知れません。

また、当山の観音様を見ればおわかりかと思いますが、観音様にはおひげが生えています。このことから観音様は基本的に男性ということが分かりますが、女性らしい観音様も多く見られます。白衣観音などは女性のようなお姿として描かれていることが多く、大船から見える大船観音も女性らしい顔立ちをされています。

というのも観音様が救いの対象に応じてその姿を変えて現れるという観音経の一節である「三十三現身」、そのうちの七つが女性の姿を取っているのです。ですから、観音様は男女のどちらの姿でも現れることができるのです。なので、男性とも女性ともつかない尊像が見られます。

観音経は「長行」と「偈文」に分かれていて、後半の「世尊妙相具々」から始まる部分が偈文であり、「世尊偈」などと呼ばれています。偈文は長行の要約でありますが、実は別のお経として作られたと考えられています。なので、その内容にはちよっとだけ差異があるのです。では、「長行」と「偈文」の内容の違いを見てみましょう。

まず「長行」にしか記述が無いのは先述の「三十三現身」です。観音様はその人その人に応じて姿を変化させて眼の前に現れ、救い導いてくださるという。この中には梵天帝釈天のような天部の神々から、子供の姿や御婦人の姿、人ならざる者の姿まで。經典には三十三しか出てきませんが（梵語ではもつと少ない）、必ずしもこれらの姿しか取れないわけではなく、それこそ無限のお姿を持ちます。常に観音様はそばにいてくださり、導いてくださる。それは私達の隣の人かもしれないし、私たち自身が観音となって人々を導くこともあるのです。

さて、このように観音経の内容を端的に述べると、観音様はいかなる時でも救ってくださるという話になります。そのため、經典には具体的な苦難が挙げられています。長行ではその例として

「七難」が示されています。よく「七難即滅」という時の七難ですね。

「火難」（火にまつわる難。火災など）

「水難」（水にまつわる難。難破や水害など）

「羅刹難」(悪鬼や悪神に襲われる難。)

「刀杖難」(武器で傷つけられる難)

「鬼難」(死霊による難。怨霊など。)

「枷鎖難」(捕まって投獄されてしまう難)

「怨賊難」(悪人に襲われてしまう難)

の七つがこれにあたります。一方で偈文になるとこれらの七難に猛獣や毒虫、呪い、荒天など自然災害を加えて十二難となります。猛獣などは現代日本に住んでいる私達には縁遠いように思えるが、少し前まで遡れば野犬が徘徊していたり、今でも山中の熊などその恐怖は決してなくなっているいません。南方の国などに行けばワニなどの被害は現代でもなくなっています。観音様はこのように場所や時代に応じて救いの手を差し伸べてくださっているのです。

また、長行では以下の文言をよく聞きますね「一心称名」。称名とは、「名を称える」ことです。つまり、「南無観自在菩薩」と声に出すことが大切なのだと言います。これは東大寺修二会でも同様で、御名前(宝号)を一心に称えて帰依を示すことこそが観音様へと心を通わせる一番の近道であります。

一方で偈文はどうでしょうか。「念彼観音力」なのです。ここでは「念じる」ことを大切にしているのですね。この「念彼観音力」は何回出てくるのかといえれば実に十三回。暗誦していると、ここで混乱する人も多いのでは無いか?ここでは観音様のお力を信じ、心から念じることを大切にします。より心の在り方を重視したお経ということができるのでしよう。その最も現れた偈こそ「是故須常念」(それ故に、常に観音菩薩のお力を念じなさい)「念々勿生疑」(一念一念に疑う心を持つこと無く)なのです。この「一念」というのが非常に重要です。心から祈ったその一念には、無量の供養と同じ価値があるのです。(詳しくは勉強会でお話します)

このように観音経は観音様のお力と、そのお力を受け取るための心構えや実践法について詳しく述べられているお経なのです。しかし、「念じる」というのは実のところ難しいものです。心を一箇所に留め一心に祈るといえるのは仏教の修行法として存在します。一方で慣れていない人にとって心を定めることは非常に困難です。故に、身体を使った実践法である「称える」という行為が大切です。心に思うよりも声に出したほうがより簡単に実践することができます。

そして、観音経を誦することには観音の教えを広めることでもあります。何よりも大切な信仰の実践になっているのです。内容が分からなくても、この妙音を称えることに意味があります。いっ

いかなる時も一心に称えてくださいませ。

南無日月光妙法蓮華經

*七月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺(七月八日〜八月八日) ※一年通してのラッキーカーラーは桜色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

七月のラッキーカーラー ライトブルー 白 赤 暗剣殺 東 五黄殺 西

【お知らせ】

- ① 八月の勉強会の日程：普賢光明寺(鎌倉) 八月一日(火) 五日(土) 六日(日) 午後一時より
横須賀支部： 八月二十日(日) 小田原別院：八月三十日(日) いずれも午後二時より。
- ② 孟蘭盆会施餓鬼不動護摩供養を七月二十三日(日)に厳修いたします。年に一度の供養祭です。一人でも多くの仏様を慈悲の心で成仏へお導きください。詳しくは別紙をご覧ください。
- ③ 滝行の日程：《塩川滝》 七月九日(日) 七月十七日(祝・月) 八月十一日(金) 午前七時集合
《夕日の滝》 七月三十日(日) 八月二十七日(日) 午前六時集合
天候等に変更になる場合もございますので事前にご確認ください。初めての方でも作法をお教えいたしますので、ぜひ行ってみてください。(行着の貸出も行っていきます)なお、行、見学共に同意書の提出が必要となります。
- ④ 仏像彫刻教室：七月九日(日) 正午より
写経会：施餓鬼に向けた写経会を行います。 七月十七日(祝・月) 十三時〜 鎌倉本堂
オンラインは二十時〜 以下のQRコードから参加できます。事前に参加の旨をお知らせください。
- ⑤

